



川の水は、どうやって飲める水にするの

浄水場で処理して飲めるようにする

わたしたちは、ふつう、水道水を飲み水に利用していますね。日本の水道ふきゅう率は、95パーセントをこえており、ほとんどの人たちが、水道水を飲み水に利用しています。この水道水の水源は、川の水（71パーセント）と、地下水（26パーセント）です。その水質については、水道法という法律で、水道水質基準が決められています。川の水や地下水は、水質のよごれがすすんでいるために、浄水場でいろいろな処理施設を組み合わせ、水をきれいにする作業が行われています。

水道水にするために取り入れた水には、にがり、におい、色などのもとなる物質がふくまれており、また、人間の体に悪い影響をあたえる、有害物質などもふくまれています。そのため、浄水場では、「凝集 ちんでん法 + 急速ろ過法」などを使って、水を処理し、さらに、塩素処理によって消毒し、わたしたちが安心して飲める水にしているのです。

さらに高度の処理法を使う

浄水処理を、もっとよくするために、高度浄水処理施設が造られています。代表的なものには、オゾン処理や、生物活性炭処理などがあります。これらは、これまで使われている処理方法と組み合わせ、使われています。（監修・田代 脩）

